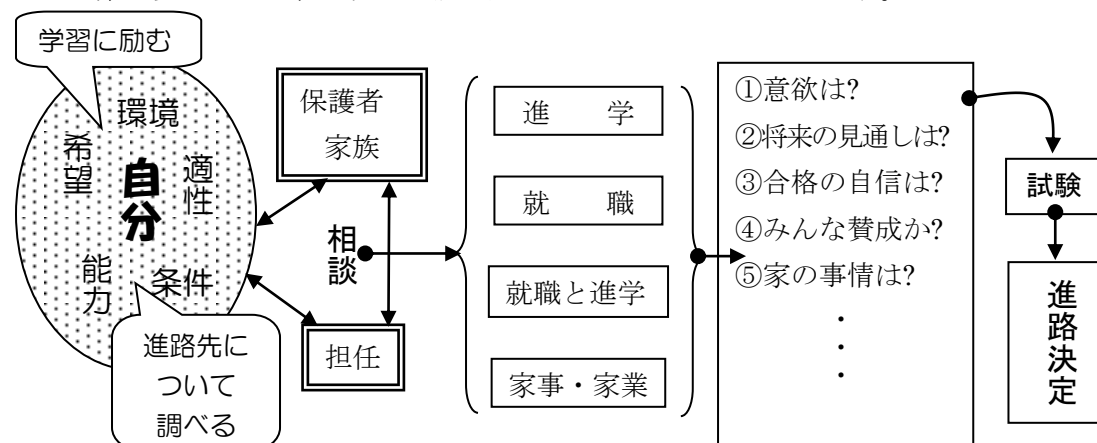


進路の決定にあたって

進路懇談について

いよいよ卒業後の進路について考える時期になりました。そのために月曜日に皆さんの前で進路決定までの流れや制度について説明しました。先生の話聞いて「気持ちを引き締めてやるべきことをやらないと！」という姿勢になってほしいです。11月中旬から最初の進路懇談が始まります。“進路懇談”というと、漠然と“先生と相談して受験校を決める”というイメージだけでとらえている人が多いようです。『どこを受けたらよいのか、教えてください。』という極端な人もいます。また、かたくなに『ここ以外は受けません。』という人もいます。みなさんの将来への第一歩を決める、大切な懇談を実りあるものにしたいものです。



1.自分自身についてよく考える・進路先についてよく知る

自分の将来の夢、興味・関心や適性(どんなことに向いているのか)など自分自身のことを客観的にとらえましょう。何よりも、希望する進路先でどのような日々を過ごすのかをイメージして
 みるのが大切です。

『高校へ入れたら、就職できたらゴールイン』ではありません。毎日その学校の制服を着てその学校まで通うのです。高校に入ったら高校での勉強があります。土曜日や平日7時間目まで授業があったり、夏休みが短かったりする学校も珍しくありません。また、“働く”ということは“賃金”をもらうわけですから、なおいっそう厳しい生活が待っています。

もちろん楽しいことややりがいもたくさんあるのですが、それらのことを考えずに『何となく名前で』、『ただ勧められたから』、『友達と一緒にの学校がいいから』で決めたら後で困ることになりかねません。

2.家庭でよく話し合う

自分の希望や考えを家の人にきちんと話しましょう。そして、保護者の考えや意見を素直に聞きましょう。その上でもし意見の食い違いがあるときは、十分に話し合しましょう。

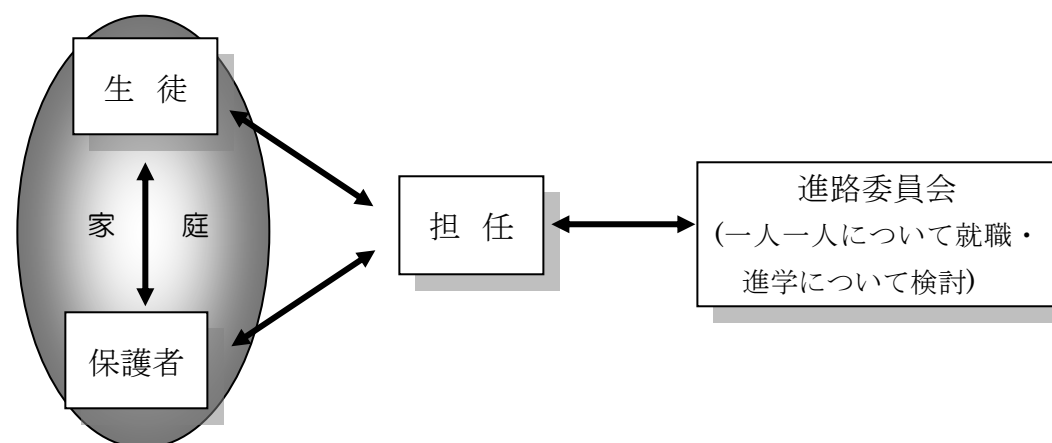


3.進路懇談

懇談は各学級で担任の先生と行われます。限られた時間で話し合うので、もし質問したいことなどがあれば、事前に先生に話しておきましょう。

中学校では、「進路委員会」を構成しています。生徒一人一人についての適性・能力などを分析し、みなさんの幸せに通ずる具体的な進路について助言するためです。進路は、生徒だけで決めるのではなく、保護者だけで決めるのではなく、もちろん担任の先生が決めるのでもありません。生徒本人を中心に学校と保護者の積極的な協力によって進路を決定するのです。

進路を決める上で大切なのは、保護者や先生などみなさんのことを真剣に考えてくれている人の意見やアドバイスをしっかり聞き、その上で自分の意思で決めることです。



★ 他府県の公立・私立校の受験を希望する人は、できるだけ早く(遅くとも12月の懇談のときに)必ず申し出てください。